

平成 2 8 年第 2 回定例会（1 2 月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

当 日 配 布 分

平成 2 8 年 1 2 月 9 日

農 林 水 産 部

目 次

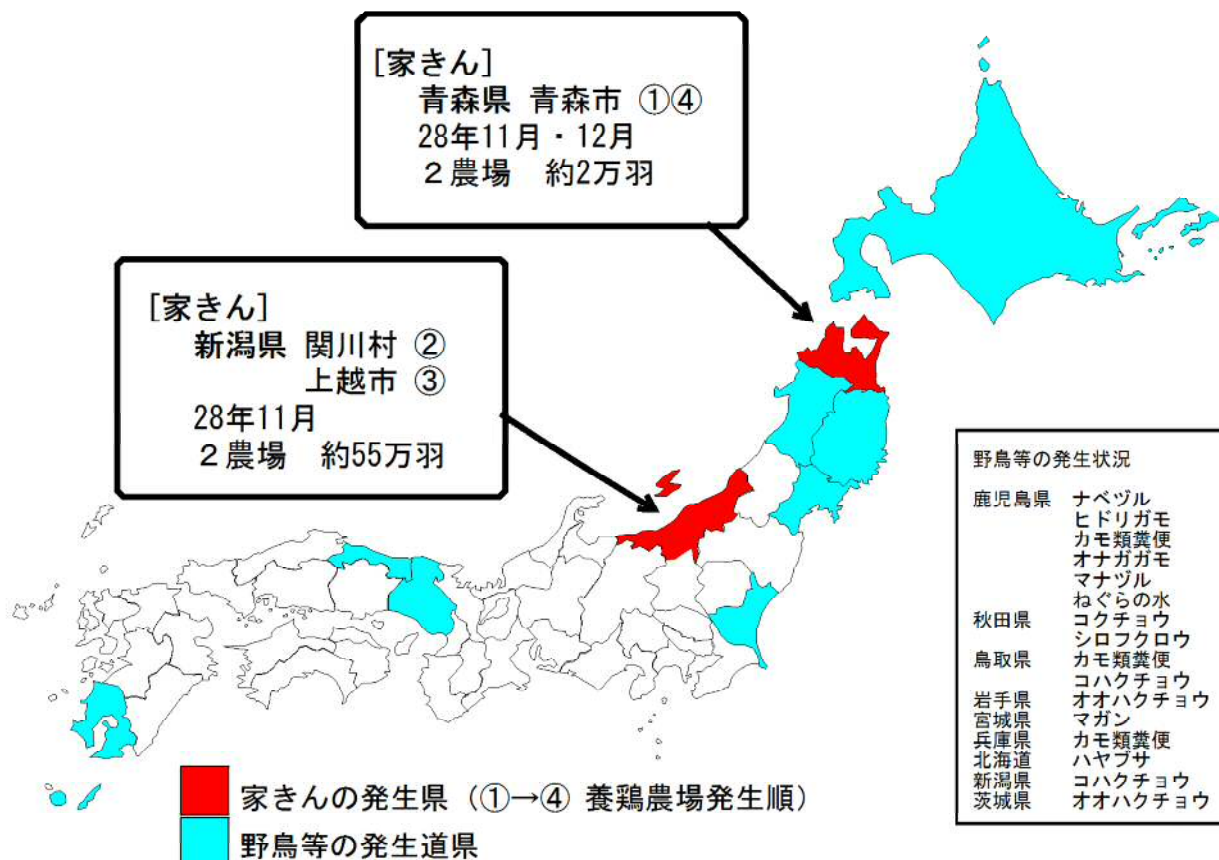
- 1 高病原性鳥インフルエンザの発生状況と本県の対応について〔畜産振興課〕 ----- 1
- 2 平成28年のハタハタ漁について〔水産漁港課〕 ----- 3

1 高病原性鳥インフルエンザの発生状況と本県の対応について

畜産振興課

1 国内の発生状況

12月7日現在、家きん(養鶏)で2県・4例、野鳥等では9道県で感染等を確認。



2 海外における発生状況

平成28年は、これまで発生を繰り返している韓国、中国、台湾、香港等のアジア地域に加え、フランス、ドイツ、イタリア等の欧州地域や、アメリカ、カナダ等の北中米地域でも発生しており、現在、46の国や地域で発生が報告されている。

特に韓国では、広域な範囲で発生が確認され、11月以降これまで440万羽(142農場)の家きんが殺処分されている。

3 本県のこれまでの対応

(1) 養鶏農家に対する防疫指導の徹底

- 秋田市大森山動物園での発生を踏まえ、県内全ての養鶏農家(約160戸、265万羽)を対象に、発生情報の提供や異状の有無の確認を行うとともに、消毒や野鳥等の侵入防止対策の徹底を指導。
- 11月30日まで緊急的に全ての養鶏農家の立入調査を実施し、消毒や野鳥等の侵入防止対策の状況を確認。
- 青森県・新潟県における家きんでの発生を踏まえ、再度、全ての養鶏農家を対象に異状の有無を確認するとともに、異状時の早期通報を指導。

【立入調査の様子】



(2) 発生を想定した対策

- 3家畜保健衛生所において、地域振興局、市町村、J A等を対象に大規模養鶏場での発生を想定した机上演習を実施。(11月9日～12月9日)

(3) 水際対策

- 港湾事務所や空港管理事務所に対し、海外での発生に関する情報を提供するとともに、入国時の靴底消毒など侵入防止対策の強化を依頼。

(4) 野鳥の監視強化

- 大森山動物園での発生を受け設定した野鳥監視重点区域（半径10km圏内）における死亡野鳥や衰弱野鳥の監視、回収・検査を継続。

4 今後の対策

- 青森県・新潟県での疫学調査では、農場の壁や金網の破損箇所から侵入した野生動物によって、付近の湖沼に生息する水鳥由来のウイルスが持ち込まれた可能性が指摘されていることから、農場の近くに水鳥が飛来する湖沼等がある農家に対し、早急に破損の有無の確認と修繕を行うよう改めて注意喚起する。
- 夜間や年末年始の発生でも迅速に対応できるよう、緊急連絡網の周知徹底を図る。
- 部外者の立入禁止や消毒の徹底、早期発見・早期通報といった基本事項の励行を再度周知しながら、発生防止に努める。

2 平成28年のハタハタ漁について

水産漁港課

1 漁獲枠について

- 今期のハタハタ漁の漁獲枠は昨年と同じ800トンで、その内訳は沖合320トン、沿岸480トンとなっている。

2 漁獲状況について

- 沖合は、9月12日から12月7日までの漁獲量が約330トンで、漁獲枠320トンに達している。
- 沿岸は、11月30日に初漁日を迎え、12月7日までの漁獲量は約110トンとなっている。
- 漁獲物の年齢組成は、中型の2歳魚が主体で、これに近年は少なかった大型の3歳魚が多く混じっている。

[地域別漁獲量]

(単位：トン)

地 域		平成28年	平成27年	平成26年
沖 合	県 北 部	134.5	74.5	59.0
	船 川	93.0	94.0	99.1
	県 南 部	100.8	85.7	54.8
	12月7日現在の計	328.3	254.2	212.9
	最終実績(漁獲枠)	— (320.0)	438.0 (320.0)	285.0 (672.0)
沿 岸	県 北 部	56.6	26.3	32.4
	男 鹿 北	31.2	71.5	90.1
	男 鹿 南	23.4	57.7	70.8
	県 南 部	0.0	0.3	0.8
	12月7日現在の計	111.2	155.8	194.1
	最終実績(漁獲枠)	— (480.0)	686.0 (480.0)	940.0 (1,008.0)
最終実績計(漁獲枠)		— (800.0)	1,124.0 (800.0)	1,225.0 (1,680.0)

※沖合の管理漁期：9月～翌6月 沿岸の管理漁期：11月～翌1月 (水産振興センター調べ)